

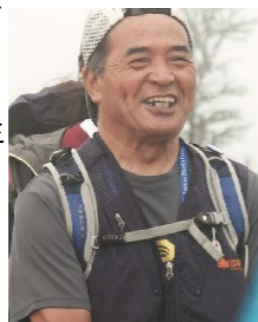
奈良 誠一 氏

ハツ場ダム建設に伴う調査で発掘されたものを展示する「やんば天明泥流ミュージアム」、その数ある展示物の中で特に気を引かれたものが二つあります。どちらも241年前の天明泥流に埋まっていた。まず搾油機、油をしぼる道具です。50cm×60cmの木製の枠で2枚の板の間に材料を入れてクサビを木槌でたたいてしぼる単純なもの。親子体験教室で使うため複製品を3台を製作しました。単純な作りですが先人の知恵が詰まっています。材を挟む二枚の板の内側には、効率よく油がまとまるように溝が彫ってあります。材料はエゴマ。ハツ場の谷では、ゴマやアブラナは栽培に不向きなので、エゴマを使っていたのではないのでしょうか。搾った油は、澄んだ緑がかった黄金色をしていました。当時油は、食用ではなく神棚や行灯など灯明用でした。油は高価なものなので自家製の油を作っていたのかもしれませんが、次に、竹の笛です。やはり泥流に埋まっていた。朽ちかけて割れています。当然吹いてみることは出来ません。笛が大好きな私としてはどんな音がするのか興味が湧き、なんとしても音が聞いてみたい。そこで、実際に作ってみることにしました。手持ちの篠竹の中から同じ太さのものを見つけ出し、調査図を元に歌口・指孔の大きさと位置を割り出し設計図を作る。それをもとに竹を加工。歌口を作り、指孔を開け形をつくっていく。仕上げは漆の代わりに黒と朱のカシュー塗料を塗る。塗料が乾くのを待って吹いてみる。緊張の一瞬です。高くそして澄んだ明るい音色がします。どんな曲を吹いていたか分かりませんが、目を閉じて吹いてみると、収穫を祝う祭囃子が聞こえてくるようでした。こんな古文書にも書かれないことに興味を持って調べることも考古学なのかもしれません。



下谷 通 氏

浅間高原に埋もれた歴史や物語の多さに、在職中にずいぶん出会った。なぜ妻恋ではなく孺が使われたのにはどんな意味があるのか。長野原は長野一族と関係あるのか。戦時下、浅間山麓はなぜ軍の演習地になったのか等々知らないことばかりだった。最大の疑問は、戦国時代末期に富岡方面から移住してきた黒岩一族の活躍にまつわる話だ。小集落だった大笹村を移転し西吾妻の中心となる大笹宿を作り上げたその財力はどこにあったのだろうか。そして、黒岩姓が孺恋村の人口の3割近くを占める増加は普通ではなく不思議であった。ところで、現代に通じる浅間高原の歴史は、浅間山の天仁の大噴火(1108)後に大地が安定したおよそ200年後に信州海野一族の下屋将監らによって開拓され、その血筋の者たちによって大半の集落がつくられた。地名も海野氏に近い頼朝伝説によるものが一番多く残る。まさに信州の力と経済の及ぶ浅間高原の様相からここは上州の埒外地に近かった。「軒先を貸して母屋を取られる」はなし？話は変わるが、富岡、藤岡市の奥の甘楽郡南牧村に田口峠という分水嶺の峠がある。しかしここが上州と信州の境ではなく、しばらく手前南牧村に下った所に国境があるとう極めて異例の境界になっている。江戸初期には白田町の人々が小集落をなして住んでいたから信州になったという。信州は利根川上流にも国土があるのだ。黒岩一族は当然この話を知っていたはずで、次に信州に組み込まれるとすれば、浅間高原だと誰もが想像がついたから、あえて山間の地に移住するミッションがあったのではなかったか。黒岩一族が36名で移住し活躍した浅間高原に私達はあたりまえのように群馬籍の扱いを受けて暮らしている。



あさまびと

ASAMA-BITO

地域の成り立ちから、地球の成り立ちを知る

SDGs × ASAMA

2024
夏号

Vol.29



特集：浅間山北麓の歴史②～中世～



アンケートに答えると毎号5名様に
ハンドブック(非売品)が当たる!



Together Forever
アンケートはこちら



ジオパークから
のお知らせ

夏のイベント情報!

7月末～8月中旬の 土日	浅間牧場周回遊歩道ジオツアー
8/25 (予定)	浅間山北麓ジオパーク火山防災の日イベント

発行：浅間山ジオパーク推進協議会

Mt. Asama Geopark Promotion Council

制作担当：広報・観光委員会

〒377-1524 群馬県吾妻郡孺恋村大字鎌原494-45

TEL/FAX：0279-82-5566

URL：www.mtasama.com

E-mail：info@mtasama2568.xsrv.jp

Facebook：www.facebook.com/asamageopark

Twitter：https://twitter.com/home

ガイドの受付しています

「浅間山北麓ジオパークガイドの会」の認定ガイドによる案内の受付をしております。ご希望の方は、左記、推進協議会事務局までお申し込みください。

【料金】*ガイド1名あたりの値段

平地：半日6,600円 1日13,200円 (参加者11名以上はガイド2名)

軽登山：半日11,000円 1日16,500円 (参加者8名以上ガイド2名)

登山：1日27,500円 (参加者8名以上ガイド2名)

編集後記

今号は歴史特集の第2弾 戦国～江戸を掘り下げました。ご自身が住んでいる地の歴史は案外知らないもの。少しでも興味をお持ちになったらぜひご自身でも調べてみてください。

国立公文書館デジタルアーカイブHP

浅間山北麓の歴史を巡る旅の第2弾。今回は、武士が台頭した鎌倉時代から江戸時代を紹介します。

この時代は、各地で勢力を伸ばした武将達が国盗り合戦を繰り広げ、豊臣秀吉が全国をほぼ統一し、徳川家康が豊臣家を滅ぼして平安な時代を築いた波乱万丈の時代と言えるでしょう。この大きな流れの中で、この地では、何が起きていたのか探ってみましょう。

